

## 呼吸器外科

部長 森山 重治

## 呼吸器外科のご紹介

呼吸器外科は2018年3月に山本彰先生が退職されて以来常勤医は不在でしたが、2020年4月に森山重治が新たに呼吸器外科部長として再開することになりました。森山は岡山大学第2外科（現呼吸器・乳腺内分泌外科）講師を経て1995年1月に岡山赤十字病院に赴任して呼吸器外科を立ち上げ、25年間勤務して岡山大学臨床教授を拝命し、定年退職する最後の3年間は副院長も務めました。岡山赤十字病院では1995年に着任時から国内でいち早く肺癌に対する胸腔鏡手術を導入し、胸腔鏡下手術は2700例以上、胸腔鏡下解剖学的肺切除手術（肺葉・区域切除）は1500例以上の実績があり、国内で呼吸器外科分野における鏡視下手術をリードしてきました。肺癌、縦隔腫瘍、自然気胸はほぼ100%胸腔鏡下に低侵襲な手術を行っています。肺癌の場合、手術の傷は切除肺を取り出すための3cmの小開胸と1.5cmのポート孔が2カ所です（図1）。肺癌の胸腔鏡下手術の入院期間は中央値で5日（術後3日目退院）、平均値で8.9日でした（表1）。胸腔鏡手術は低侵襲なため、術後の合併症が少なく、日常生活や社会生活への復帰が早く、術後疼痛が少なく、呼吸機能が温存されることが森山らの臨床研究で証明されています。また、日本気胸・嚢胞性肺疾患学会では永年評議員・理事を務め、2018年8月には岡山で第22回総会を主催しました。気胸という疾患は一般病院でも必ず診るポピュラーな疾患ですが、若年者から高齢者まで年齢層が幅広く病態が多様で奥の深い疾患です。高知では一般病院で診療に携わる内科・外科の先生に気胸の最近の治療指針や最新の知見を啓発していきたいと考えています。

2022年4月1日から高知大学医学部 病院教授の穴山貴嗣先生が呼吸器外科部長として着任しました。穴山先生は高知大学医学部で呼吸器外科の診療科長として大学の呼吸器外科の臨床・研究を指導し、若い呼吸器外科医を育成してこられました。当院にはまだロボットは導入していませんが、穴山先生はロボット手術のプロクターの資格を有しており、当院に着任後も日本全国の他施設で手術指導も行っています。また、2023年4月から当院 ER 専任医師である立道佳祐先生が呼吸器外科専門医修練医師として毎週火曜日に手術を手伝ってくれることになりました。立道先生は元々金沢大学呼吸器外科出身です。

穴山先生が着任後順調に症例数が伸びていましたが、2024年1月をもって退職され、国際医療福祉大学成田病院呼吸器外科教授として赴任されました。

穴山先生は退職されましたが、森山、立道の二人体制で最新の呼吸器外科診療を高知県の皆さんに広く役立てていただけるよう努力していく所存です。症例の相談でも結構ですので、症例がありましたら是非ご紹介のほど宜しくお願いいたします。

## 手術実績

2024年1月から2024年12月までの手術症例数を示します。86例全例が鏡視下手術でした。

表1 手術症例数（2023年1月～2023年12月）

疾患	術式	症例数
原発性肺癌 (全て完全胸腔鏡下)	部分切除	4
	区域切除	7
	葉切除以上	25
転移性肺腫瘍	部分切除	6

(全て完全胸腔鏡下)	区域切除	0
	葉切除以上	1
原発性自然気胸	完全胸腔鏡下	5
続発性（難治性）気胸	完全胸腔鏡下	20
血気胸	完全胸腔鏡下	1
良性肺腫瘍	完全胸腔鏡下	5
縦隔腫瘍	完全胸腔鏡下	3
重症筋無力症	完全胸腔鏡下	0
縦隔膿瘍	完全胸腔鏡下	0
急性膿胸	完全胸腔鏡下	5
肺・縦隔リンパ節生検他	完全胸腔鏡下	3
その他		1
合計		86

年間手術件数の推移

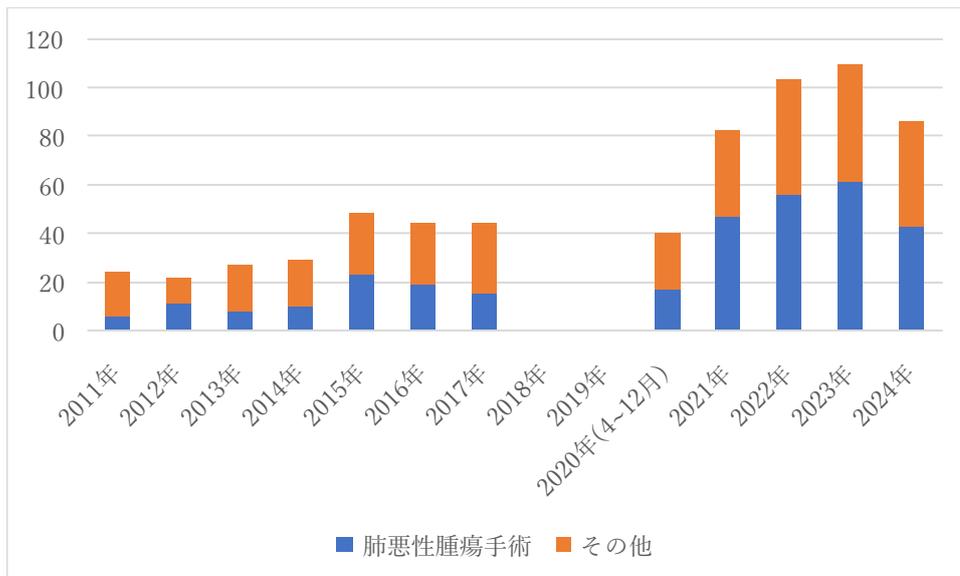
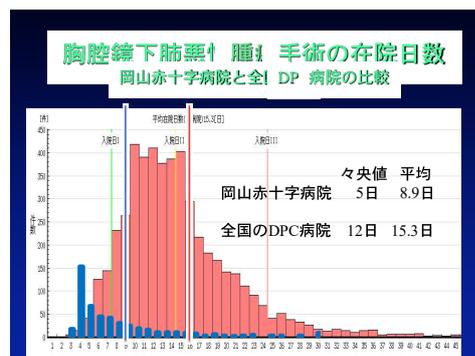


図 1 胸腔鏡下肺癌手術の手術創



図 2 在院日数の全国 DPC 病院との比較



## **学術発表・講演会等**

### **学会発表**

第 41 回日本呼吸器外科学会学術集会 5 月 31 日～6 月 1 日 長野

術前マーキングを代替する VR 画像で描出される臓側胸膜変化を landmark とした縮小手術  
穴山貴嗣、立道佳祐、森山重治

難治性肺化膿症に対し、開窓術につづく荒蕪肺切除・有茎広背筋弁充填・胸郭形成術で二期的に  
治療した 1 例

立道佳祐、穴山貴嗣、森山重治

### **講演**

なし

### **論文発表・著書**

なし